

全国地域ブランド総選挙

風間浦鮫鯨PR「特別賞」

青公大生ら ラーメンの活用提案

特許庁など主催の「全国地域ブランド総選挙」決勝戦が6日、オンラインで開催された。東北代表として風間浦村の「風間浦鮫鯨」を活用したビジネスプランを提案した青森公立大生らのチームは、上位入賞を逃したが「審査員特別賞」を受賞した。決勝に残った全国9チームのうち、最優秀賞は「西尾の抹茶」（愛知）

をPRした名古屋大学などのチームが受賞した。チーム風間浦鮫鯨は、青公大地域みらい学科の学生8人と、地元団体「ゆかい村風間浦鮫鯨ブランド戦略会議」で構成。学生は風間浦鮫鯨について①認知度が低い②販売額を増やす必要がある③漁師の所得・後継者不足と課題を挙げ、ビジネスプランとして全国のラ

ーメン店から出店を募り、来場客の投票で頂点を決める「風間浦鮫鯨ラーメン総

選挙」を提案した。アンコウを親しみやすく集客性があるラーメンにする

ことで出店者、客村が得られるメリットを説明。3種類のラーメンを試作し、総選挙を開催した場合の収支見通しも発表した。

学生は昨年10月、同村を訪れ、漁師らを取材。アンコウに関するアンケートも

オンラインで行った全国地域ブランド総選挙決勝戦で風間浦鮫鯨を活用したビジネスプランを発表した学生 6日午後



行った。「審査員特別賞」

の結果について、中村実来さん（2年）は「他のチームには、自分たちにはない発想があつて驚いた。情報発信の仕方、ブランドの生かし方をこれからのゼミ活動に生かす」と話した。

全国地域ブランド総選挙は、地域団体商標制度の普及と活用促進を目的に、特許庁などが開催する事業で、今回初めて全国規模で行った。（鳥谷部知子）